

教育・研究業績書

講座名 泌尿器科学		
＜教員の紹介＞		
教授 吉田 謙一郎	講師 釜井 隆 男	
准教授 山西 友典		
准教授 深堀 能立		
准教授 本田 幹彦		
講師 阿部 英行		
<b>I 教育活動</b>		
<b>教育実践上の主な業績</b>	<b>年月</b>	<b>概要</b>
<b>① 教育内容・方法の工夫（授業評価を含む）</b>		
1. 学生の授業理解度を向上させる取り組み	2004年5月～現在	<p>1) 3年生の講義は腎・泌尿器科 36 コマうち 14 コマを泌尿器科学講座で担当している。36 コマの講義は病理学、循環器内科学、小児科学、臨床病理学も分担しており、腎・泌尿器の臓器に関する基礎・臨床の各科が加わり、各科がシラバスの調整のもと、コアカリキュラムを漏らさぬよう密接な関連を保って講義を行っている。泌尿器科の講義ではプリントを配布のもと、パワーポイントを用いスライドにて説明し、プリントの行間を学生が自ら埋める様な講義方法をとっている。また講義では一部に質疑応答形式を取り入れ、学生の注意が散漫にならないような工夫をこらしている。プリントには小項目毎に設問を加え、復習しやすい工夫を凝らしている。</p> <p>2) 6年生では腎・泌尿器科の集中講義が行われるが、泌尿器科としては学生に設問をまず解かせ、その解説を行うという形式で、プリントとスライドを用いて行っている。疾患を臓器の病態生理学的面から捉え、それを自ら展開していくという思考習慣をつけるよう学ばせている。</p> <p>3) B S Lでは豆テストによるクルズスを行い、骨盤内臓器の縦断像を描画させている。描画法の工夫により、容易に縦断像が書けるようになり、同時に発生・機能・病態を解説することにより、解剖から疾患までの理解に役立てている。</p>
2. 学生の授業参加意識の向上の取り組み	2004年5月～現在	5年のBSLでは学生医師として、広く臨床に参

<p>み</p> <p>3. 学生による授業評価の活用</p>	<p>2004年5月～現在</p>	<p>加してもらうことをモットーとしている。所謂見学型ではなく参加型としている。具体的には、班体制で行っている病棟診療について、学生1人ずつを班に属させ、グループ診療の重要性を意識させている。検査、手術、回診、患者・家族への説明などに、グループの1人として活動させている。実学として医学を学ばせるため、手術における清潔行為の学習（手洗い、手袋・ガウンの着脱）、膀胱内カテーテル留置、糸の結紮を行わせている。回診前の患者のプレゼンテーション、画像読影、超音波の捜査なども実学として学ばせている。BSLの期間に泌尿器科臓器の解剖の復習、また輸液、中心静脈栄養についても学ばせている。</p> <p>BSLは学生一人一人に直接接する機会であるため、BSL各グループの終了時にアンケート調査を行い、「患者さんから、疾患から、あるいは医療（医療従事者を含む）から学んだことは何か」、「泌尿器科BSLで改善すべき点、これからも続けるべき良いところは何か」についてレポートを提出させ、次年度からのBSLの改善に毎年取り組んでいる。</p>
<p><b>② 作成した教科書、教材、参考書</b></p>		
<p>1. 3年生 臓器別講義「腎・泌尿器科学」 教材作成</p> <p>2. 6年生 集中講義「腎・泌尿器科学」 教材作成</p>	<p>2005～2009 毎年改訂</p> <p>2005～2009 毎年改訂</p>	<p>講義担当の分野に即した泌尿器科の講義用問題集を作成している。国家試験を意識した問題になるよう工夫している。</p>
<p><b>③ 教育方法・教育実践に関する発表、講演・その他教育活動上特記すべき事項</b></p>		
<p>獨協医科大学FD委員会委員</p> <p>獨協医科大学OSCE実行委員会委員</p>	<p>2008年6月～現在</p> <p>2007年12月～現在</p>	<p>教官の授業実施方法の向上について検討し、優れた教育方法を行う教官の調査と、授業方法講演の企画、より良い授業法実践の検討等を行っている。</p> <p>OSCEが滞りなく行えるよう、企画・運営を行っている。特に、自分の担当分野では、学生の指導やOSCE評価者の指導を行い、環境設備の不備等についても注意している。</p>

弘前大学医学部 OSCE 評価者	2009 年 2 月	弘前大学医学部で行われた OSCE において、外部評価者として参加し、弘前大学医学部での OSCE を評価した。
------------------	------------	--

教育・研究業績書

講座名	職名	氏名	
泌尿器科学	教授	吉田 謙一郎	大学院の研究指導担当資格 有
<b>Ⅱ 学会等および社会における主な活動</b>			
1971年12月～現在	化学療法学会 正会員		
1971年12月～現在	日本癌治療学会 正会員		
1996年4月～現在	日本泌尿器科学会 評議員		
1996年4月～現在	日本内分泌学会 評議員		
1996年4月～現在	日本生殖医学会 評議員		
2004年4月～現在	日本アンダーロギン学会 幹事		
<b>Ⅲ 研究活動</b>			
【学位論文】			
【著 書】			
欧文			
1. 山西友典, 水野智弥, <u>吉田謙一郎</u> : 骨盤底筋体操および理学療法の適応と限界. 泌尿器外科 18(臨増): 469-471, 2005.			
2. 山西友典, 水野智弥, 中西公司, <u>吉田謙一郎</u> : 講座「排尿障害: 過活動膀胱」 総合リハビリテーション. 医学書院, 34: pp151-156, 2006.			
3. 深堀能立, <u>吉田謙一郎</u> : 正常ゴナドトロピン性精子形成障害(特発性精子形成障害) 内分泌症候群 -その他の内分泌疾患を含めて- 男性性機能 性腺機能低下症 日本臨床別冊 内分泌症候群(第2版)II. 日本臨床社, pp253-256, 2006.			
4. <u>吉田謙一郎</u> : [今日の小児治療方針] 包茎, 亀頭包皮炎. 医学書院, pp481, 2006.			
5. 釜井隆男, <u>吉田謙一郎</u> : ミニマム創内視鏡下手術 ミニマム創内視鏡下根治的腎摘除術の実際. Urology View メジカルビュー社 4: pp 66-72, 2006.			
6. <u>吉田謙一郎</u> , 増田聡雅: NEW 泌尿器科学 第4章(7)膀胱の先天異常(8)尿道の先天異常. 南江堂, pp15-141;2007.			
【原 著】			
欧文			
1. Kamai T, Yamanishi T, Shirataki H, Takagi K, Asami H, Ito Y, <u>Yoshida K-I</u> : Overexpression of RhoA, rac1 and Cdc42 GTPases is associated with progression in testicular cancer. Clin Cancer Res 10: 4799-4805, 2004.			
2. Ishizaka K, Kobayashi S, Machida T, <u>Yoshida K-I</u> : Randomized prospective comparison of fosfomicin and cefotiam for prevention of postoperative infection following urological surgery. J Infect Chemother. 13: 324-331, 2007.			
3. Kamai T, Yanai Y, Arai K, Abe H, Yamanishi T, Kurimoto M, <u>Yoshida K-I</u> : Increased interferon alpha receptor 2 mRNA levels is associated with renal cell carcinoma metastasis. BMC Cancer. 159: 1-11, 2007.			
4. Abe H, Kamai T, Tsujii T, Nakamura F, Mashidori T, Mizuno T, Tanaka M, Tatsumiya K, Furuya N, Masuda A, Yamanishi T, <u>Yoshida K-I</u> : Possible role of the RhoC/ROCK pathway in progression of clear cell renal cell			

carcinoma. Biomedical Research 29: 155-161, 2008.

5. Abe H, Kamai T, Shirataki H, Oyama T, Arai K, Yoshida K-I: High expression of Ran GTPase is associated with local invasion and metastasis of human clear cell renal cell carcinoma. Int J Cancer 122:2391-2397, 2008.

和文

1. 吉田謙一郎: 「男性にも更年期は存在するのか」—その成因・診断・治療—. 栃木県産婦人科医報 32: 64-68, 2005
2. 吉田謙一郎, 中西公司, 阿部英行: 性同一障害とは?いつごろからわかるのか? 小児内科 37: 1078-1081, 2005.
3. 石坂和博, 町田竜也, 田中将樹, 川村尚子, 中村圭輔, 阿部英行, 吉田謙一郎: ナフトピジルの臨床的有用性の検討—ナフトピジルと塩酸タムスロシンの臨床比較—. 泌尿器外科 20: 861-869, 2007.

#### 【総 説】

和文

1. 吉田謙一郎, 山西友典, 坂本修一, 細谷吉克: 過活動膀胱 (OAB) の診断と治療—プライマリケアに見られる尿意切迫感・頻尿・尿漏れ—. Medical Tribune 3.22, 83-84, 2007.
2. 吉田謙一郎: 「LUTSとOABについて」. 真壁医師会報 7, 9, 2007.
3. 山西友典, 吉田謙一郎: 特集 過活動膀胱を再考する 過活動膀胱診療における排尿機能検査の意義を見直す. 泌尿器外科 21: 557-565. 2008.

#### 【症例報告】

#### 【その他】

教育・研究業績書

講座名	職名	氏名	
泌尿器科学	准教授	山西 友典	大学院の研究指導担当資格 有
<b>Ⅱ 学会等および社会における主な活動</b>			
1982年4月～現在	日本泌尿器科学会 正会員（現在ボーディングメンバー）		
1990年4月～現在	日本自律神経学会 正会員		
1990年4月～現在	二分脊椎研究会 正会員		
1991年4月～現在	International Continence Society(国際禁制学会) 正会員		
1991年4月～現在	日本平滑筋学会 正会員		
1992年4月～現在	International Spinal Cord Society(国際脊髄学会) 正会員		
1992年4月～現在	日本小児泌尿器科学会 正会員（1999-2007年 留学中より一時退会）		
1992年4月～現在	日本 Endourology and ESWL 学会（1999-2003年 留学中より一時退会）		
1993年4月～現在	American Urological Association (米国泌尿器科学会) 国際会員		
1994年4月～現在	International Urogynecological Association(国際泌尿婦人科学会)正会員		
1995年4月～現在	Sociate Internationale D'Urologie (国際泌尿器科学会) 正会員		
1997年4月～現在	日本排尿機能学会 評議員、理事		
1995年4月～現在	European Association of Urology (欧州泌尿器科学会) 正会員		
2003年4月～現在	間質性膀胱炎研究会 正会員		
2004年4月～現在	日本癌治療学会 正会員		
2005年4月～現在	日本脊髄障害学会 評議員		
2006年4月～現在	日本老年泌尿器科学会 評議員		
2007年4月～現在	Pan Pacific Continence Society Organizing Committee		
2007年4月～現在	日本夜尿症学会 理事		
2007年4月～現在	日本女性骨盤底医学会 正会員		
2008年4月～現在	排尿障害モデル動物研究会 世話人		
<b>Ⅲ 研究活動</b>			
【学位論文】			
【著 書】			
欧文			
1. Wilson PD, <u>Yamanishi T</u> , Berghmans B, Hagen S, Hay-Smith J, Moore K, Nygaard I, Sinclair L, Wyman J, Dorey G: Adult conservative management. In “Incontinence (2005 edn)” (ed. Abrams P., Cardozo L, Khoury S, Wein A) pp855-964. Health Publication Ltd Paris 2005			
和文			
1. <u>山西友典</u> : 長期有効性、タムスロシン「有効性と安全性のエビデンス」 (河邊香月監修)、pp30-39、リッチヒルメディカル 東京 2006			
2. <u>山西友典</u> : 膀胱尿道撮影 排尿・性功能検査「自律神経機能検査」(日本自律神経学会編) pp347-350. 分光堂 東京 2007			

3. 山西友典：外尿道括約筋筋電図 排尿・性功能検査「自律神経機能検査」（日本自律神経学会編）pp351-354. 分光堂 東京 2007
4. 山西友典：薬物性排尿障害「よくわかって役に立つ排尿障害のすべて」（西澤理 監修）pp148-159. 永井書店 東京 2007
5. 山西友典：下部尿路機能障害に対する理学療法（骨盤底筋体操）、膀胱訓練、電気刺激治療（干渉低周波含む）「下部尿路機能障害へのアプローチ」（後藤百万 監修）pp55-64. 中外医学社 東京 2007
6. 山西友典：排尿のトラブルの検査Q&A「排尿・排便のトラブルQ&A」（本間之夫監修） pp13-pp22. 日本医事新報社 東京 2007
7. 山西友典：排尿の症状Q&A「排尿・排便のトラブルQ&A」（本間之夫監修） pp61-pp70. 日本医事新報社 東京 2007
8. 山西友典：尿失禁「レジデント・コンパス」（泌尿器科編）pp18-22. ライフ・サイエンス 東京 2007
9. 山西友典：過活動膀胱病態に応じた薬物療法. 下部尿路機能障害の病態に応じた治療の実際「単行本ファーマナビゲーターシリーズ」（下部尿路機能障害編）pp156-169. メディカルビュー 東京 2008
10. 山西友典：前立腺肥大症と尿失禁、尿滴下「よくわかって役に立つ前立腺肥大症のすべて」（平尾 佳彦編）pp111-120. 永井書店 東京 2008
11. 山西友典：低活動膀胱の一般的な解説と評価・治療法. 高齢者の排泄を惹起する病態－診断と治療－、高齢者の排泄ケアpp53-60, 長寿科学振興財団. 愛知、2008
12. 山西友典：アジアにおけるBPHの疫学「New Concepts of BPH/LUTS」（山口脩、西澤理、塚本泰司、武田正之 編）pp94-98. リッチヒルメディカル 東京 2008
13. 山西友典：尿失禁、排尿障害の基礎知識「尿失禁女性urologic diseasesのケア」（加藤久美子監修）pp8-31. MCメディカ出版 大阪 2008
14. 本間之夫、荒木勇雄、井川靖彦、大園誠一郎、後藤百万、山西友典、横山修、吉田正貴、日本排尿機能学会男性下部尿路症状診療ガイドライン作成委員会：男性下部尿路症状診療ガイドライン Blackwell Publishing 東京 2008
15. 山西友典、吉田謙一郎：過活動膀胱に対するneuromodulation治療の有効性は？ 「E B M 泌尿器疾患の治療 2009-2010」（後藤百万、小川修、笈善行、出口隆、鈴木考治編）pp297-304. 中外医学社 東京 2009
16. 山西友典：尿失禁「ガイドライン外来診療」（泉孝英編）pp358-363. 日経メディカル開発 東京 2009

### 【原 著】

欧文

1. Yamanishi T, Yasuda K, Kamai K, Tsujii T, Sakakibara R, Uchiyama T, Yoshida K: Combination of a cholinergic drug and an alpha-blocker is more effective than monotherapy for the treatment of voiding difficulty in patients with underactive detrusor. Int J Urol11:88-96, 2004
2. Uchiyama T, Sakakibara R, Hattori T, Yamanishi T: Lower urinary tract dysfunctions in patients with spinal cord tumors. Neurourol Urodyn 23:68-75, 2004
3. Sakakibara R, Uchiyama T, Asahina M, Suzuki A, Yamanishi T: Micturition disturbance in acute idiopathic autonomic neuropathy. J Neurol Neurosurg Psychiatry 75:287-291, 2004
4. Yano M, Kitahara S, Yasuda K, Yamanishi T, Nakai H, Yanagisawa R, Morozumi M, Homma Y: A pilot study evaluating a new questionnaire for prostatic symptom scoring, the SPSS, and its sensitivity as constructed

- to objective measures of outflow obstruction. *Int J Urol* 11:288-294, 2004
5. Yamanishi T, Yasuda K, Kamai T, Tsujii T, Sakakibara R, Uchiyama T, Yoshida KI: Single-blind, randomized controlled study of the clinical and urodynamic effects of an alpha-blocker (naftopidil) and phytotherapy (eviprostat) in the treatment of benign prostatic hyperplasia. *Int J Urol* 11:501-509, 2004
  6. Sakakibara R, Odaka T, Uchiyama T, Liu R, Asahina M, Yamaguchi K, Yamaguchi T, Yamanishi T, Hattori T: Colonic transit time, sphincter EMG, and rectoanal videomanometry in multiple system atrophy. *Mov Disord* 19:924-929, 2004
  7. Sakakibara R, Uchida Y, Uchiyama T, Yamanishi T, Hattori T: Reduced cerebellar vermis activation during urinary storage and micturition in multiple system atrophy: Tc-labelled ECD SPECT study. *Eur J Neurol* 11:705-708, 2004
  8. Yamamoto T, Sakakibara R, Uchiyama T, Liu Z, Ito T, Yamanishi T, Hattori T. Lower urinary tract function in patients with pituitary adenoma compressing hypothalamus. *J Neurol Neurosurg Psychiatry* 76:390-394, 2005
  9. Sakakibara R, Hamano S, Uchiyama T, Liu Z, Yamanishi T, Hattori T: Do BPH patients have neurogenic detrusor dysfunction? A uro-neurological assessment. *Urol Int* 74:44-50, 2005
  10. Sakakibara R, Yamamoto T, Uchiyama T, Liu Z, Ito T, Yamazaki M, Awa Y, Yamanishi T, Hattori T: Is lumbar spondylosis a cause of urinary retention in elderly women? *J Neurol* 252:953-957, 2005
  11. Sakakibara R, Uchiyama T, Liu Z, Yamamoto T, Ito T, Yamanishi T, Hattori T: Nocturnal polyuria with abnormal circadian rhythm of plasma arginine vasopressin in post-stroke patients. *Intern Med* 44:281-284, 2005
  12. Yamamoto T, Sakakibara R, Uchiyama T, Liu Z, Ito T, Awa Y, Yamamoto K, Kinou M, Yamanishi T, Hattori T: When is Onuf's nucleus involved in multiple system atrophy? A sphincter electromyography study. *J Neurol Neurosurg Psychiatry* 76:1645-1648, 2005
  13. Ito T, Sakakibara R, Yasuda K, Yamamoto T, Uchiyama T, Liu Z, Yamanishi T, Awa Y, Yamamoto K, Hattori T: Incomplete emptying and urinary retention in multiple-system atrophy: When does it occur and how do we manage it? *Mov Disord* 21:816-823, 2006
  14. Homma Y, Yoshida M, Seki N, Yokoyama O, Kakizaki H, Gotoh M, Yamanishi T, Yamaguchi O: Symptom assessment tool for overactive bladder syndrome-overactive bladder symptom score. *Urology* 68:318-323, 2006
  15. Yamaguchi C, Sakakibara R, Uchiyama T, Liu Z, Yamamoto T, Ito T, Awa Y, Yamamoto K, Kinou M, Yamanishi T, Nomura F, Hattori T: Bladder sensation in peripheral nerve lesions. *Neurourol Urodyn* 25:763-769, 2006
  16. Yamanishi T, Yasuda K, Kitahara S, Nakai H, Yoshida K, Iizuka H: Effects of 138-355, a b3-adrenoceptor selective agonist, on relaxation of the human detrusor muscle in vitro. *Neurourol Urodyn* 25:815-819, 2006
  17. Sakakibara R, Uchiyama T, Awa Y, Liu Z, Yamamoto T, Ito T, Yamamoto K, Kinou M, Yamaguchi C, Yamanishi T, Hattori T: Psychogenic urinary dysfunction: a uro-neurological assessment. *Neurourol Urodyn* 26:518-524, 2007
  18. Suzuki T, Yasuda K, Yamanishi T, Kitahara S, Nakai H, Suda S, Ohkawa H: Randomized, double-blind, sham-controlled evaluation of the effect of functional continuous magnetic stimulation in patients with urgency incontinence. *Neurourol Urodyn* 26:767-772, 2007
  19. Yamaguchi C, Sakakibara R, Uchiyama T, Yamamoto T, Ito T, Liu Z, Awa Y, Yamamoto K, Nomura F, Yamanishi



- T., Hattori T: Overactive bladder in diabetes: A peripheral or central mechanism?. *Neurourol Urodyn* 16:807-813, 2007
20. Abe H, Yamanishi T, Mashidori T, Arai K, Kamai T: Significant association of interleukin 10 receptor mRNA levels with renal cell carcinoma. *Biom Res* 29:19-25, 2008
21. Sakakibara R, Uchiyama T, Yamanishi T, Shirai K, Hattori T: Bladder and bowel dysfunction in Parkinson's disease. *J Neural Transm.* 115:443-460, 2008
22. Sakakibara R, Yamaguchi C, Uchiyama T, Ito T, Liu Z, Yamamoto T, Awa Y, Yamanishi T, Hattori T: Pelvic Autonomic Dysfunction without Paraplegia: A Sequel of Spinal Cord Stroke. *Eur Neurol* 60:97-100, 2008
23. Igarashi T, Zenbutsu S, Yamanishi T, Naya Y: Three-Dimensional Image Processing System for the Ureter and Urethra Using Endoscopic Video. *J Endourol* 22:1569-1572, 2008
24. Yamanishi T, Tatsumiya K, Furuya N, Masuda A, Kamai T, Sakakibara R, Uchiyama T, Yoshida KI. Long-Term Efficacy of Tamsulosin in the Treatment of Lower Urinary Tract Symptoms Suggestive of Benign Prostatic Hyperplasia in Real-Life Practice. *UIJ* 2: 1944-5784. 2009
25. Nakanishi K, Kamai T, Mizuno T, Arai K, Yamanishi T: Expression of RhoA mRNA and activated RhoA in urothelium and smooth muscle, and effects of a Rho-kinase inhibitor on contraction of the porcine urinary bladder. *Neurourol Urodyn* in press.
26. Yamamoto T, Sakakibara R, Uchiyama T, Liu Z, Ito T, Awa Y, Yamanishi T, Hattori T.: Questionnaire-based assessment of pelvic organ dysfunction in multiple system atrophy. *Mov Disord* in press

#### 和文

1. 本間之夫、柿崎秀宏、後藤百万、武井実根雄、山西友典、林邦彦:排尿に関する疫学的研究. *日排尿会誌* 14:266-273, 2004
1. 中西公司、山西友典、釜井隆男、吉田謙一郎、中井秀郎、北原聡史、安田耕作:膀胱容量低下型小児夜尿症・尿失禁に対する干渉低周波の効果. *夜尿症研究* 9: 67-71, 2004
2. 山西友典、水野智弥、中西公司、釜井隆男、榊原隆次、内山智之、山本達也、伊藤敬志: 排尿筋収縮における尿路上皮とRho-kinaseの役割. *自律神経* 43: 315-319, 2006
4. 本間之夫、後藤百万、横山修、西澤理、山西友典、武井実根雄、吉田正貴、武田正之、柿崎秀宏、山口脩: Overactive bladder questionnaire (OAB-q) の日本語版の計量心理学的検討. *日排尿会誌* 17:250-256, 2007
5. 山西友典、水野智弥、中西公司、古谷信隆、渡辺美穂、真志取智子、龍宮克尚、吉田謙一郎、濱野聡、網谷兆康: 夜尿症における膀胱訓練. *夜尿症研究*, 13:19-23, 2008

#### 【症例報告】

#### 欧文

1. Funakoshi K, Fukutake T, Nishino H, Sato S, Yamanishi T.: Urinary retention caused by a small cortical infarction. *J Neurol Neurosurg Psychiatry* 76:457-458, 2005
2. Mashidori T, Yamanishi T, Yoshida K, Sakakibara R, Sakurai K, Hirata K: Continuous urinary incontinence presenting as the initial symptoms demonstrating acontractile detrusor and intrinsic sphincter deficiency

in multiple system atrophy. Int J Urol 14: 972-974, 2007

3. Sakakibara R, Yamazaki M, Mannouji C, Yamaguchi C, Uchiyama T, Ito T, Liu Z, Yamamoto T, Awa Y, Yamanishi T, Hattori T: Urinary retention without tetraparesis as a sequel to spontaneous spinal epidural hematoma. Intern Med 47:655-657, 2008

#### 【総 説】

##### 欧文

1. Yamanishi T: Lower urinary tract symptoms (LUTS) in middle-aged and elderly men. JMAJ (Japan Medical Association Journal). 47:1-6, 2004
2. Yamanishi T, Kamai T, Yasuda K, Sakakibara R, Uchiyama T, Yoshida K-I: Which Beta-adrenoceptor subtypes are important in the treatment of overactive bladder? Cur Drug Ther 2: 79-84, 2007
3. Yamanishi T, Kamai T, Yoshida K-I: Neuromodulation for the treatment of urinary incontinence. Int J Urol 15:665-72, 2008
4. Sakakibara R, Uchiyama T, Yamanishi T, Kishi M: Sphincter EMG as a diagnostic tool in autonomic disorders.

##### 和文

1. 中西公司、山西友典、吉田謙一郎:薬物療法、過活動膀胱の治療. 排尿障害プラクティス 12:19-26, 2004
2. 山西友典:質問Box、過活動膀胱. 泌尿器ケア 10:47-51, 2005
3. 山西友典、水野智弥、鈴木常貴、安田耕作、吉田謙一郎:尿失禁に対する磁気刺激療法、特集:排尿障害における電気刺激療法、磁気刺激療法. 泌尿器外科 18:11-16, 2005
4. 水野智弥、山西友典、吉田謙一郎:切迫性尿失禁に対する治療. 看護技術 51:27-29, 2005
5. 山西友典:中高年男性の排尿症状. PTM治療マニュアルAPR:7: 2005
6. 山西友典、水野智弥、吉田謙一郎:膀胱直腸障害、排尿障害、第5章脊椎脊髄疾患における注目すべき症状. Dynamic diagnosisに必要な脊椎脊髄の神経症候学、脊椎脊髄ジャーナル 18:609-614, 2005
7. 山西友典、水野智弥、中西公司、吉田謙一郎:骨盤底筋体操および理学療法の適応と限界. 泌尿器外科 18 臨時増刊号:469-471, 2005
8. 吉田謙一郎、山西友典、後藤健太郎、加瀬知男:前立腺肥大症の薬物治療～患者さんのQOL向上に向けて～Medical Tribune 特別企画 第2部:81-84, 2005
9. 榊原隆次、劉志、山本達也、伊藤敬志、朝比奈正人、阿波裕輔、山本香織、木納美香、山西友典、服部孝道:痴呆と排尿障害:アルツハイマー病とレヴィー小体型痴呆を中心に. 自律神経 42:131-134, 2005
10. 榊原隆次、内山智之、劉志、山本達也、伊藤敬志、阿波祐輔、山本香織、木納美香、山西友典、服部孝道:アルツハイマー病の合併症と対策. 失禁. モダンフィジシャン 25:1129-1132, 2005
11. 山西友典、西沢理、吉田正貴, K-E Andersson:「抗コリン薬の展望—アトロピン抵抗性膀胱収縮への対処」Round table discussion. Medical Tribune 特別企画(2005.8.30. Montreal).
12. 山西友典:「排尿筋過活動の診断と治療」 特集企画「尿失禁・頻尿」カレントセラピー 24: 24-28, 2005
13. 山西友典:過活動膀胱、総合リハビリテーション 34: 151-156, 2006
14. 山西友典、水野智弥、吉田謙一郎:過活動膀胱の診断、Pharma Medica 24: 29-32, 2006
15. 山西友典、水野智弥、中西公司、吉田謙一郎:尿失禁に対する骨盤底電気刺激療法、排尿障害プラクティス 14:7-11,

2006

16. 中西公司、山西友典、水野智弥、吉田謙一郎、北原聡史、安田耕作、夜尿症に対する干渉低周波療法、排尿障害プラクティス 14:7-11, 2006
17. 山西友典：精神疾患患者の排尿困難. ドクターサロン 50: 665, 2006
18. 山西友典：前立腺肥大症. 調剤と情報 12:967-975, 2006
19. 山西友典、吉田謙一郎：前立腺肥大症における薬物療法の新展開、Medical Digest 抜粋版 2006
20. 山西友典：臨床医による新薬の評価. 酒石酸トルテロジン. クリニカルプラクティス 9: 906-908, 2006
21. 榊原隆次、山西友典、内山智之、平賀陽之、山本達也、伊藤敬志、劉志、阿波祐輔、服部孝道：炎症性神経疾患に伴う仙髄自律神経障害（尿閉）自律神経 43:241-249, 2006
22. 山西友典、水野智弥、中西公司、釜井隆男、榊原隆次、内山智之、山本達也、伊藤敬志：排尿筋収縮における尿路上皮とRho-kinaseの役割. 自律神経 43:315-319, 2006
23. 榊原隆次、山西友典、内山智之、劉志、山本達也、伊藤敬志、阿波祐輔、服部孝道：良性炎症性神経疾患に伴う尿閉. 日排尿会誌 17:268-273, 2006
24. 山西友典、水野智弥、中西公司、吉田謙一郎：過活動膀胱に対するNeuromodulation. これだけは知っておきたい：OAB治療のエッセンス Urology View 5: 63-69, 2007
25. 山西友典、水野智弥、中西公司、釜井隆男、吉田謙一郎：脳卒中後の排尿障害—とくに尿貯留なしに頻尿を訴える時の対策. 高齢者の排尿障害の病態と対策. 排尿障害プラクティス 14:39-45, 2007
26. 山西友典、水野智弥、中西公司、吉田謙一郎：Neuromodulation. 過活動膀胱のすべて. 臨床泌尿器科 61: 603-609, 2007
27. 山西友典：新薬展望 2007. 第Ⅱ部 注目の新薬. 過活動膀胱治療剤、一般名：酒石酸トルテロジン 「デトルシトール®カプセル 2mg・4mg」 医薬ジャーナル、43: 59-62, 2007
28. Chapple CR、西澤理、吉田正貴、井川靖彦、武田正之、本間之夫、後藤百万、Abrams P、武井実根雄、山西友典：特別企画OAB East/West summit meeting. Medical Tribune、40: 46-49, 2007
29. 山西友典、水野智弥、中西公司、吉田謙一郎：診療ガイドラインの実践と問題点. 過活動膀胱の最前線. 排尿障害プラクティス 15: 130-121, 2007
30. 吉田謙一郎、山西友典、坂本修一、細谷吉克：過活動膀胱（OAB）の診断と治療—プライマリケアに見られる尿意切迫感・頻尿・尿漏れ— Medical Tribune 3:22: 83-84, 2007
31. 山西友典：イラストで学ぶLUTS 「前立腺肥大症における低侵襲手術」. LUTS Clinical Research 3: 10-11, 2007.
32. 釜井隆男、中村文彦、阿部英行、山西友典、吉田謙一郎：尿管損傷（他科手術時）、特集泌尿器科救急、臨床泌尿器科 61:1049-1055, 2007
33. 山西友典、水野智弥、吉田謙一郎：42. 時々夜尿症のある男児. 神経因性膀胱障害と尿失禁【(遺尿症(夜尿症))】泌尿器科外来ベストナビゲーション—ここが聞きたい 96 例の対処と処方. 臨床泌尿器科、62(増):143-145, 2008
34. 山西友典、水野智弥、吉田謙一郎：43. 抗コリン薬による口腔内びらんを来した夜尿症児. 神経因性膀胱障害と尿失禁【(遺尿症(夜尿症))】泌尿器科外来ベストナビゲーション—ここが聞きたい 96 例の対処と処方. 臨床泌尿器科、62(増):146-148, 2008
35. 山西友典、龍宮克尚、吉田謙一郎、金水英俊、小瀧隆英、五十嵐辰男：内視鏡全体画像の応用. b 下部尿路、Mebio 25:6-13, 2008
36. 山西友典、吉田謙一郎：排尿筋収縮力増強作用/外尿道括約筋弛緩作用：GABA活性薬他、排尿に関する新規治

療薬—可能性のある薬剤も含めて—排尿障害プラクティス、16:107-112, 2008

37. 山西友典、吉田謙一郎：専門医との連携、プライマリ・ケアにおける下部尿路機能障害へのアプローチ. Prog Med 28:1397-1402, 2008
38. 榊原隆次、山口千晴、内山智之、伊藤敬志、劉志、山本達也、阿波祐輔、岸雅彦、山西友典、服部孝道：糖尿病における過活動膀胱：中枢および末梢の関与. 自立神経. 45:92-96, 2008
39. 山西友典、吉田謙一郎：トフラニール. 治療法紹介. 排尿障害プラクティス、印刷中 62:344-347, 2008
40. 石塚修、山西友典、後藤百万、升森直哉、菅谷公男、吉田正貴、西澤理：漢方製剤の臨床効果—牛車腎気丸を中心として—Urology View 7:81-84, 2009
41. 山西友典：ガイドラインクローズドアップ. LUTSプライマリ・ケア 6:13-15, 2009
42. 山西友典：夜間頻尿. ドクターサロン 53: 420-423, 2009
43. 山西友典、水野智弥、吉田謙一郎、榊原隆次、内山智之、服部孝道：過活動膀胱の現状：定義、病因と診断について. 自律神経. 印刷中
44. 山西友典、水野智弥、吉田謙一郎、榊原隆次、内山智之、山本達也、伊藤敬志：(ミニレビュー) ブタ膀胱上皮および平滑筋におけるRhoAの発現とCarbachol収縮におけるY27632(Rho-kinase阻害薬)の役割. 自律神経. 印刷中

#### 【その他】

欧文

1. Homma Y, Yamaguchi O, Hayashi K, and the members of the neurogenic bladder society committee (Kakizaki H, Gotoh M, Takei M, Nishizawa O, Yamanishi T, Yokoyama O): Epidemiologic survey of lower urinary tract symptoms in Japan. Urology 68:560-564, 2006
2. Urological Survey, Voiding Function. J Urol 1821, 2007. (Yamamoto T, Sakakibara R, Uchiyama T, Liu Z, Ito T, Awa Y, Yamanishi T, Hattori T: Neurological diseases that cause detrusor hyperactivity with impaired contractile function. NeuroUrol Urodynam 25:356-360, 2006)

和文

1. 山西友典、安田耕作：神経因性膀胱の尿排出障害に対する薬物療法. 日脊障医誌 18:16-17, 2005
2. 榊原隆次、内山智之、杉山芳樹、山本達也、伊藤敬志、山西友典、服部孝道：髄膜炎—尿閉症候群：脊髄病変の関与について. 日脊障医誌 18: 242-243, 2005
3. 山西友典:前立腺肥大症の診断と $\alpha$ 1-blocker. K-ネットカンファレンス(2006年, 12月20日放送).
4. 山西友典:「どうしました」朝日新聞、2006年1月22日版
5. 山西友典: ICS2006 report pp17-18, 2007
6. 山西友典:「困った夜間頻尿」医療者のつぶやき. 東京新聞、2006年5月24日版
7. 山西友典: 過活動膀胱ガイドライン「今日の治療指針」第49巻 (山口徹、北原光夫、福井次矢 編) pp1585-1589. 医学書院 東京 2007
8. 山西友典、吉田謙一郎:Bladder Diary (パンフレット) 2007
9. 山西友典: Japan LUTS Questionnaire 「前立腺肥大症に伴う下部尿路症状(LUTS)の診断. LUTS Clinical Research Vol2, pp2-3, 2007
10. 山西友典: Japan LUTS Questionnaire 「前立腺肥大症に伴う過活動膀胱(OAB)の診断. LUTS Clinical Research

Vol2, pp4-5, 2007

11. 山西友典: 腹部エコーで簡単「残尿測定」(パンフレット)2008
12. 山西友典: ICS2007 report pp17-18, 2008
13. 山西友典: 夜間頻尿 TBS ラジオ明日も元気 1.7.~1.11. 2007 放送
14. 山西友典: 過活動膀胱ガイドライン「今日の治療指針」第 50 巻 (山口徹、北原光夫、福井次矢 編) pp1650-1654. 医学書院 東京 2008
15. 山西友典 (監修): 脳卒中後の排尿障害ケア～診断と治療のポイント. 2008
16. 山西友典 (監修): 前立腺肥大症. 中高年男性に多い排尿トラブルと解決方法 2008
17. 山西友典: 前立腺肥大症の診断と  $\alpha$  1-blocker. K-ネットカンファレンス (7. 23. 2008. 放送).
18. 本間之夫、横山修、山西友典: Male LUTS-その病態と治療-第 96 回日本泌尿器科学会 News Letter, 2008
19. 山西友典: カリスマ医師の神ワザ. 日刊ゲンダイ 2008 年 7 月 24 版 (pp15)
20. 山西友典: 夜間頻尿. ドクターサロン. ラジオNIKKEI (2008. 10. 30. 放送)
21. 山西友典: 学んでみようー下部尿路機能障害って? (薬剤師向け冊子) 2008
22. 山西友典: 過活動膀胱. カリスマ医師 50 人の神ワザ. 松沢実著. 小学館. 東京 pp134-137, 2008
23. 山西友典: 男性下部尿路症状の診断と治療. Medicament News. 第 1964 号 ライフサイエンス. 東京, pp12-13, 2008 年 12 月 15 日版
24. 山西友典、山田: 対談、こころから間質性膀胱炎を診る. LUTS Clinical Research 7: 10-13, 2009
25. 山西友典: 前立腺肥大症. 鳥越俊太郎 医療の現場 (2009 年 2 月 14 日 BS朝日放送)
26. 山西友典: ICS2008 レポート pp16-17, pp33, 2007
27. 山西友典: Topics 第 5 8 回日本泌尿器科学会中部総会ランチョンセミナー、「高齢者 LUTS のマネージメント～診療のポイントとリスク管理～」Corre Pon Urology 2:14-15, 2009

教育・研究業績書

講座名 泌尿器科学	職名 准教授	氏名 深堀 能立	大学院の研究指導担当資格 有
--------------	-----------	-------------	----------------

## Ⅱ 学会等および社会における主な活動

1982年 11月～現在	日本泌尿器科学会員
1984年 4月～現在	日本内分泌学会員
1990年 1月～現在	日本癌治療学会員
1994年 5月～現在	日本癌学会員
1995年 7月～現在	日本夜尿症学会員
1995年 11月～現在	日本生殖医学会員
1996年 5月～現在	米国泌尿器科学会員
1996年 9月～現在	日本排尿機能学会員
1997年 1月～現在	日本透析医学会員
1997年 5月～現在	日本老年泌尿器科学会員
1997年 7月～現在	国際泌尿器科学会員
1998年 7月～現在	日本アンドロロジー学会評議員
1999年 11月～現在	日本ステロイドホルモン学会員
2004年 5月～現在	日本老年泌尿器科学会排尿管理相談員
2009年 1月～現在	共用試験医学系 OSCE 外部評価者

## Ⅲ 研究活動

### 【学位論文】

### 【著 書】

和文

1. 深堀能立, 山中英寿: 前立腺肥大症. [新版] 高齢者ケアマニュアル, 福地義之助 (編), pp226-232, 照林社, 東京, 2004.
2. 深堀能立: 26. 排尿. 人間の許容限界事典, 山崎昌廣・坂本和義・関邦博 (編), pp183-189, 朝倉書店, 東京, 2005.
3. 深堀能立, 吉田謙一郎: V男性性機能 1. 性腺機能低下症 11) 正常ゴナドトロピン性精子形成障害 (特発性精子形成障害). 別冊日本臨床 内分泌症候群 (第2版) -その他の内分泌疾患を含めて- II, pp253-256, 日本臨床社, 東京, 2006.
4. 深堀能立: 男性不妊症. 今日の診断基準, 太田健・奈良信夫 (編), pp406-407, 南光堂, 東京, 2007.

### 【原 著】

欧文

1. Shibata Y, Kashiwagi B, Arai S, Fukabori Y, Suzuki K, Honma S, Yamanaka H: Direct regulation of prostate blood flow by vascular endothelial growth factor and its participation in the androgenic regulation of prostate blood flow in vivo. *Endocrinology* 145: 4507-4512, 2004.
2. Shibata Y, Kashiwagi B, Ono Y, Fukabori Y, Suzuki K, Honma S, Yamanaka H: The evaluation of rat prostate blood flow using a laser speckle flowmetry: a comparative study using the microsphere method in castrated and androgen-replenished rats. *Urol Res* 32: 44-48, 2004.
3. Masuda H, Fukabori Y, Nakano K, Shimizu N, Yamanaka H: Expression of bone morphogenetic protein-7 (BMP-7)

- in human prostate. Prostate 59 : 101-106, 2004.
4. Ono Y, Suzuki K, Kashiwagi B, Shibata Y, Ito K, Fukabori Y, Yamanaka H : Role of androgen on blood flow and capillary structure in rat seminal vesicles. Tohoku J Exp Med 202 : 193-201, 2004.
  5. Ono Y, Suzuki K, Kashiwagi B, Shibata Y, Ito K, Fukabori Y, Yamanaka H : Androgen-dependent blood flow control and morphological changes of the capillaries in rat prostate. Int J Androl 27 : 50-56, 2004.
  6. Shibata Y, Kashiwagi B, Arai S, Fukabori Y, Suzuki K. : Administration of extract of mushroom Phellinus linteus induces prostate enlargement with increase in stromal component in experimentally developed rat model of benign prostatic hyperplasia. Urology. 66:455-460, 2005.
  7. Fukabori Y, Yoshida K, Nakano K, Shibata Y, Yamanaka H, Oyama T. :Preparation of a single prostate needle biopsy specimen for histological diagnosis and RNA analysis. J Urol. 176:1204-1207, 2006.
  8. Hosoya T, Monden T, Fukabori Y, Hashimoto K, Satoh T, Kasai K, Yamada M, Mori M. : A novel splice variant of the nuclear coactivator p120 functions strongly for androgen receptor: characteristic expression in prostate disease. Endocr J. 55:657-665, 2008.

#### 和文

1. 曲友弘, 深堀能立, 鈴木和浩, 山中英壽, 小倉治之 : 膀胱重量算出ノモグラムを使用した下部尿路閉塞の評価. 泌尿器科紀要 50 : 7-14, 2004.
2. 武智浩之, 伊藤一人, 山本巧, 大井勝, 久保田裕, 黒川公平, 深堀能立, 鈴木和浩, 山中英壽 : 前立腺がん・非がん症例における、PSA上昇形態の解析. 日本腎泌尿器疾患予防医学研究会誌 12 : 41-43, 2004.
3. 深堀能立、古谷信隆、龍宮克尚、新井京子、大出定夫、山根則幸、吉田謙一郎 : 栃木県における前立腺癌検診の現状と問題点、日本腎泌尿器疾患予防医学研究会誌 16 : 81-83, 2008.

#### 【症例報告】

#### 和文

1. 新田貴士, 小池秀和, 深堀能立, 羽鳥基明, 小野芳啓, 松井博, 鈴木和浩, 山中英壽, 志川葉子, 金澤崇, 小川千登世 : 急性陰嚢症にて再発した急性リンパ性白血病の精巣浸潤の 1 例. 日本泌尿器科学会雑誌 95 : 722-724, 2004.
2. 新井誠二, 柏木文蔵, 山本巧, 深堀能立, 小林幹男, 鈴木和浩 : 石灰化と骨形成を伴った腎細胞癌、臨床泌尿器科 60:405-407、2006.

#### 【総説】

#### 和文

1. 深堀能立 : ホルモンと下部尿路機能 -アンドロゲンと下部尿路機能-. 泌尿器外科 17 : 579-580, 2004.
2. 深堀能立、吉田謙一郎 : 前立腺癌. Dokkyo Journal of Medical Sciences 32:197-212, 2005.
3. 深堀能立、吉田謙一郎 : 前立腺癌のバイオマーカー、Biotherapy 23:143-149, 2009.

#### 【その他】

欧文

1. Fukabori Y, Yoshida K, Nakano K, Kurokawa K, Yamanaka H. : Fibroblast growth factor receptor 2 as a predictor to biochemical failure of prostate cancer after androgen ablation therapy. Br J Urol 94 (supple. 2) :198, 2004
2. Fukabori Y, Yoshida K-I, Nakano K, Shibata Y, Oyama T, Yamanaka H: Expression pattern of fibroblast growth factor receptor 2 (FGFR2) predicts early biochemical failure of advanced prostate cancer treated with androgen ablation therapy. J Urol, 173: 311-312, 2005.
3. Fukabori Y, Nakano K, Masuda H, Kurokawa K, Yoshida K, Yamanaka H: Double paracrine system in prostatic growth, 2nd Symposium on biology of prostate gland. Ise-Shima 2006, pp54-55, 2006.

和文

1. 深堀能立 : アンドロゲン受容体特異的共役因子p120 $\beta$ による前立腺癌もホルモン抵抗性再燃予測、平成14年度～平成16年度科学研究費補助金（基盤研究(B)(2)）研究成果報告書、pp1-188, 2005.
2. 小山徹也, 神原常仁, 深堀能立 : 病理との付き合い方 明日から使える病理の基本【実践編 11】泌尿器 前立腺、Medicina 43 : 2087-2092, 2006.
3. 深堀能立、水野智弥、龍宮克尚、古谷信隆、新井京子、小作明則、吉田謙一郎 : 遺伝子検査より診断されたPrimary Dyskinesia の1例、日本アンドロロジー学会総会記事XXVII、pp117, 2008.
4. 深堀能立 : 【排尿障害と性機能障害】、第1回栃木ストーマリハビリテーション講習会テキスト、栃木ストーマリハビリテーション講習会実行委員会、pp96-107, 2008.



講座名 泌尿器科学	職名 准教授	氏名 本田 幹彦	大学院の研究指導担当資格 有
--------------	-----------	-------------	----------------

## Ⅱ 学会等および社会における主な活動

1974年4月～現在	日本癌治療学会員
1974年4月～現在	日本泌尿器科学会員
1996年4月～現在	日本内分泌学会員
1996年4月～現在	日本生殖医学会員
1996年4月～現在	日本腎臓学会員
1996年4月～現在	日本リハビリテーション医学会員

## Ⅲ 研究活動

### 【学位論文】

### 【著 書】

和文

1. 本田幹彦, 中村文彦, 吉田謙一郎: 排尿時の痛み, 「プライマリ・ケア即戦手引き」. 金芳堂, 2009.
2. 本田幹彦, 水野智弥, 吉田謙一郎: 尿が近い, 出にくい, 「プライマリ・ケア即戦手引き」. 金芳堂, 2009.
3. 本田幹彦, 中西公司, 吉田謙一郎: 腎尿路結石, 「プライマリ・ケア即戦手引き」. 金芳堂, 2009.
4. 本田幹彦, 神原常仁, 吉田謙一郎: 尿路系の異常, 「プライマリ・ケア即戦手引き」. 金芳堂, 2009.
5. 本田幹彦, 古谷信隆, 吉田謙一郎: 腎腫瘍, 「プライマリ・ケア即戦手引き」. 金芳堂, 2009.

### 【原 著】

欧文

1. Watanabe M, Yamanishi T, Mizuno T, Tatsumiya K, Masuda A, Honda M, Uchiyama T, Sakakibara R, Yoshida K-I: Effects of silodosin on lower urinary tract symptoms in patients with benign prostatic hyperplasia. evaluation by frequency / volume chart, LUTS (in press).

### 【症例報告】

### 【総 説】

和文

1. 山西友典, 本田幹彦, 吉田謙一郎: 高齢者の排尿障害. 総合臨床 58:1997-1999, 2009.
2. 山西友典, 本田幹彦, 芳田謙一郎: 排尿障害 専門的検査. Modern Physician 29:2009-2011, 2009.
3. 深堀能立, 本田幹彦, 神原常仁, 吉田謙一郎: 前立腺癌のアンドロゲン依存性とその消失. 臨床検査 53:1631-1639, 2009.

### 【そ の 他】

教育・研究業績書

講座名 泌尿器科学	職名 講師	氏名 阿部 英行	大学院の研究指導担当資格 有
--------------	----------	-------------	----------------

## II 学会等および社会における主な活動

1996年6月～現在	日本泌尿器科学会員
------------	-----------

## III 研究活動

### 【学位論文】

Abe H, Yamanishi T, Mashidori T, Arai K, Kamai T: Significant association of interleukin 10 receptor mRNA levels with renal cell carcinoma metastasis. Biomedical Research 29:19-25, 2008.

### 【原 著】

欧文

1. Kamai T, Yanai Y, Arai K, Abe H, Yamanishi T, Kurimoto M, Yoshida K-i: Increased interferon alpha receptor 2 mRNA levels is associated with renal cell carcinoma metastasis. BMC Cancer159: 1-11, 2007.
2. Abe H, Kamai T, Shirataki H, Oyama T, Arai K, Yoshida K-I. :High expression of Ran GTPase is associated with local invasion and metastasis of human clear cell renal cell carcinoma. Int J Cancer122: 2391-2397, 2008.
3. Abe H, Kamai T, Tsujii T, Nakamura F, Mashidori T, Mizuno T, Tanaka M, Tatsumiya K, Furuya N, Masuda A, Yamanishi T, Yoshida K-I: Possible role of the RhoC/ROCK pathway in progression of renal cell carcinoma. Biomed Res29: 155-161, 2008.

### 【症例報告】

### 【総 説】

### 【そ の 他】

教育・研究業績書

講座名 泌尿器科学	職名 講師	氏名 釜井 隆男	大学院の研究指導担当資格 有
--------------	----------	-------------	----------------

## II 学会等および社会における主な活動

1992年～現在	日本泌尿器科学会員、専門医、指導医
2005年～現在	日本癌治療学会員
2005年～現在	日本EE学会員
2009年～現在	日本癌学会員

## III 研究活動

### 【学位論文】

### 【著 書】

### 【原 著】

欧文

1. Kamai T, Yamanishi T, Shirataki H, Takagi K, Asami H, Ito Y, Yoshida K-I : Overexpression of RhoA, Rac1, and Cdc42 GTPases is associated with progression in testicular cancer. Clin Cancer Res10:4799-4805, 2004.
2. Watanabe M, Kamai T, Masuda A, Huruya N, Yonezawa T, Niakanishi K, Kambara T, Tsujii T, Yoshida K-I : A case report: testicular pure seminoma metastasized to costal bone after 2 years post-operatively Hinyokika Kyo50:505-509, 2004.
3. Kamai T, Yanai Y, Arai K, Abe H, Yamanishi T, Kurimoto M, Yoshida K-I : Increased interferon alpha receptor 2 mRNA levels is associated with renal cell carcinoma metastasis. BMC Cancer159: 1-11, 2007.
4. Abe H, Kamai T, Shirataki H, Oyama T, Arai K, Yoshida K-I : High expression of Ran GTPase is associated with local invasion and metastasis of human clear cell renal cell carcinoma. Int J Cancer122: 2391-2397, 2008.
5. Abe H, Yamanishi T, Mashidori T, Arai K, Kamai T : Significant association of interleukin 10 receptor mRNA levels with renal cell carcinoma metastasis. Biomedical Research 29:19-25, 2008.
6. Abe H, Kamai T, Tsujii T, Nakamura F, Mashidori T, Mizuno T, Tanaka M, Tatsumiya K, Furuya N, Masuda A, Yamanishi T, Yoshida K-I : Possible role of the RhoC/ROCK pathway in progression of renal cell carcinoma. Biomed Res29: 155-161, 2008.
7. Nakanishi K, Kamai T, Mizuno T, Arai K, Yamanishi T : Expression of RhoA mRNA and activated RhoA in urothelium and smooth muscle, and effects of a rho-kinase inhibitor on contraction of the porcine urinary bladder. Neurourol Urodyn 28:521-528, 2009.
8. Masuda A, Kamai T, Abe H, Arai K, Yoshida K-I : Is Stat3 and/or p53 mRNA expression a prognostic marker for renal cell carcinoma? Biomed Res30:171-176, 2009.
9. Furuya N, Kamai T, Tokui N, Abe H, Fukabori Y, Yoshida K-I : Interferon alpha and half-dose sorafenib is an effective treatment modality for interferon alpha-resistant metastatic renal cell carcinoma: a case report Hinyokika Kyo55:323-326, 2009.

【症例報告】

【総 説】

【そ の 他】